



ヒグマ接近!!コース規制始まる

7月9日の空沼を皮切りに、その後の数日間緑沼、鴨沼、大学沼で巡視スタッフが近距離でヒグマと遭遇しました。いずれのヒグマも人が近くにいても気にせず採食を続けたり、草を求めて人のほうへ歩いてきたり。そのためコース内でのヒグマとの近距離遭遇の可能性が高まることからコースを大学沼もしくは緑沼まで制限する日が続いています。

7月17日現在はコースは大学沼まで開放しています。ヒグマの出没状況でコースの開放状況は変わります。最新の情報はホームページやSNSをご確認ください。



7月9日空沼畔草地でスタッフが遭遇したヒグマ

ぬまクマニュース vol.3 (7/8~7/17) ~ヒグマもそれぞれ個性あり~

巡視員はコースの安全を確保するために、日々コース内にヒグマがいないか巡視しています。そしてヒグマを見つけたら安全な距離を保ったうえで、そのヒグマの動向を観察しています。

ヒグマを観察しているとヒグマの個性が見えてきます。顔や体の大きさ、形、色...よく見るとどのヒグマも人間の様に異なっていて個性があります。個体の識別はかなり難しいですが、「昨年のクマかな」などとスタッフ同士で話したりして名前をつけてみたり。見た目だけでなく、しぐさや挙動もクマによって違います。他のクマにおどおどするクマもいれば、人間を気にしないクマもいます。

したがってクマ対策と一概に言ってもすべてのクマが同じように挙動するとは限らないのです。ヒグマに出会ったら冷静にそのクマの様子を観察することも必要です。



個性あるヒグマ達の顔（左上：空沼7/9、右上：大学沼畔草地7/13、左下：大学沼奥草地7/9、右下：鴨沼7/10）

今こそ伝えたい緑沼の魅力！！

コース制限に伴い「えー!?緑沼までしか行けないの!?」という声がちらほら...。1周目当てで来て緑沼までは物足りないかもしれません。しかし緑沼も素晴らしい場所です。ここでは緑沼の魅力をお伝えします。

緑があふれる緑沼

夏に近づくにつれて緑沼が緑沼といわれる所以が分かってきました。日に日に沼まわりの緑が濃くなっているのです。そして背後には緑岳...!?緑沼は緑であふれています。ちなみに緑沼は秋には紅葉がきれいな場所でもあります。

沼に住む生き物たち

トンボと言えば土俵沼ですが、緑沼でも鮮やかなトンボを見かけます。トンボだけでなく沼の中にはエゾサンショウウオの子ども!!木道の間からエゾアカガエルが飛び出してくることもあります。沼や周辺の生き物を探すのもおもしろいですよ。

ヒグマも見えます!

実は緑沼から高根ヶ原斜面にいるヒグマが見えることがあるんです!!双眼鏡でも点でしか見えませんが...。観察に夢になっているとそばの藪からヒグマが出てくることも無いわけでないので注意が必要です（実際スタッフが遭遇）。



緑あふれる緑沼 (7/15撮影)



エゾサンショウウオ



緑沼から確認した高根ヶ原のヒグマ

7月17日現在コースは大学沼までとなっております。ヒグマの出没状況でコースの開放状況は変わります。最新の情報はホームページやSNSをご確認ください。



高原温泉
ヒグマ情報
センター

大雪山国立公園
高原温泉沼めぐり
登山コース

2024年 第3号 (7月17日)
発行：ヒグマ情報センター



高根ヶ原東斜面にてヒグマを観察する米田センター員（ヒグマがどこにいるかわかりますか？）

米田センター員が遭遇した空沼畔草地のヒグマ

ヒグマの住処を歩くこと

ヒグマ情報センタースタッフ米田



今年からヒグマ情報センターのスタッフとして働くことになり、ほぼ毎日沼めぐり登山コースを歩く日々を過ごしています。ここ5年くらいは年に90日ほど山で過ごすという生活をしてきていたのですが、そのほとんどがいわゆるバリエーションルートといわれるもので、夏は沢登りやクライミング、冬は山スキーや縦走をしてきました。それゆえ、登山道や整備されたコースを歩くという経験がほとんどなく、逆に新鮮な体験をしています。

センターに勤める前、そして務めてすぐのころは、決められた登山道を歩くことの窮屈さを感じたり、毎日同じところを歩くことへのつまらなさを持っていたのも事実です。ですが、「毎日」「同じところ」を「ゆっくり」歩くことで見えてくる美しさや楽しさがあることが、次第に分かってきました。

雪が少しずつ解け、緑が芽吹き、花が咲き、虫が飛びまわる。今までもそうした季節の変化を実感していましたが、「毎日」「同じところ」を歩くことで、その変化が起るまさにその一瞬一瞬を体験しているという感覚を強く持つことができるようになりました。変化していく風景の一部に今自分がいるという事を、肌で感じられるのはとても幸せなことです。

そして「ゆっくり」歩くことで、山が持つ時間や風景が持つ時間になんとなく近づけるような気持ちにもなります。今までは、自分もつ時間の感覚を山に押し付けるような登り方をしてきたともいえるような気がするので、新しい山での時間の流れ方を発見できたような気がしています。

そうした日々の新しい発見や体験の中心にいたのはやはりヒグマです。

登山道から見える場所でヒグマが草を食み、やれ合い、雪渓を滑り降りるその風景は、普段の暮らしとはまさに別世界。たった数百m離れたその先に、こんなにもユニークで美しい営みが繰り広げられていて、その空間の共有と観察を可能にできる大雪山の環境は、本当に素晴らしいものです。

巡視に出るときは、今日はどんな姿を見せてくれるのだろうかという気持ちを抱きながら毎日コースを歩いています。と同時に、ヒグマに出会った時にどうすればいいのだろうかと考えない日もあります。人間にも様々な性格があり、また日によって気分や体調が変わるように、ヒグマにも様々な性格があり、気分や体調があるのだと思います。とすれば、人間との付き合い方に正解がないように、ヒグマとの付き合い方にも正解はないのだと思います。ヒグマのこと、山のこと、自然のことは100%理解できない、断言できないことが多いですが、それが正解なのだとも思います。正しい知識を付け、それを実践の中で自分の経験として積み上げ、その都度考えながら、決まった答えはないことを忘れずに、これからもヒグマや山や自然に向き合いたいと思います。

そういう意味でも、新しい歩き方、新しい感じ方を与えてくれているヒグマ情報センターでの日々を大切にしながら、と思っています。